

P30a カメレオン座分子雲の近赤外撮像観測

大朝 由美子、田村 元秀、杉谷 光司

カメレオン座分子雲は近傍の低質量星形成領域であるが、同様に近傍の低質量星形成領域の牡牛座分子雲に比べて、過去にあまり観測が行われておらず、この領域における星形成、とくに(超)低質量星の形成はまだよく解明されていない。しかし最近、Nordh et al.(1996) が ISO を用いて遠赤外線波長で観測を行い、低光度の天体がみつかった。

今回、我々はこの分子雲の一部を吸収の影響を受けにくい近赤外線の J, H, K の 3 バンドで CERRO TOLOLO 天文台の 1.5m 望遠鏡を用いてディープサーベイをおこなった。

近赤外のディープサーベイは分子雲中の ClassII および Class I 天体を無バイアスで検出する有効な手段であることが Itoh ,Tamura and Gatley (1996) による牡牛座分子雲のサーベイで示されている。

本講演では、今回の観測で検出された若い天体の性質、および統計に付いて述べ、牡牛座分子雲との比較を行う予定である。